

はじめに

今、すべてのビジネスパーソンに求められている「実力」

新卒で入社してから定年まで——終身雇用、年功序列で一つの会社で勤め上げるのが、かつての日本人のスタンダードな働き方でした。そこで必要なのは、ルールから外れないための配慮。つまり、波風立てずにやるべきことを粛々とこなせばよかったということです。

しかし近年、そのような状況に変化が生じています。具体的には、年功序列による評価制度や終身雇用という慣習が徐々になくなり、実力主義を採用する企業が増加しています。つまり、どのような人材でも雇用が保証され、右肩上がりでの給料も上昇していくという時代ではなくなってしまったのです。年功序列や終身雇用の崩壊がもたらすものはなにか。それは、実力がなければ望むような仕事や役職につけない現状です。実力とは、会社が求めている成果をあげ、周囲から評価されるとともに、出世・転職・独立というあらゆるステップアップに対応できるスキルのこと。単なる処世術ではありません。事実、厚生労働省の調査によると、民間企業の管理職は全体のわずか11%にすぎず、出世の道は極めて狭く険しい道であることがわかります。



選ばなければ仕事はあります。現状維持でいいのならそれなりに幸せな職業人生をおくれるかもしれません。ただ、本当にそれでいいのでしょうか。

予測不能で変化の激しい今の時代、主体的に生き抜くためには、安心安定の要素が必要ですが、それはかつて、保有資格や所属している組織が担っていました。しかし、今は違います。資格が必要な職種はA-1に代替され、所属している組織はいつなくなるか分からなくなりました。状況や組織にかかわらず成果を出せる実力が問われる時代になりました。

では、どうすれば成果を出すための「本物」の実力を身につけることができるのでしょうか。

大企業で出世、独立／起業からEXIT、 上場企業の経営者、ベストセラー作家

会社において「結果を出す」とは「会社が求める結果を出す」ことです。

どれだけ努力していても結果に結びついていなければ評価されません。

目に見えないかたちで結果を出し続けても評価されづらいのも事実です。上司は万能ではありません。正しく評価してもらったことも含めて自分の責任なのです。

IT技術によって世の中はよりフラットになりました。

良い行いも、悪い行いも可視化される時代になりました。

何気ない行いがネットメディアにフィーチャーされて一気にヒーローになることもあれば、ちょっとした悪ふざけが炎上を呼び起こし、取り返しのつかないことになったりもします。良くも悪くも「嘘がつけない世の中」になったのです。

人間関係や過去の実績が可視化され、会社組織での評価などもブラックボックスだったものが透明化されつつあります。これまで年功序列だった評価制度が成り立ちづらい時代になりました。

そこに過去の経験年数や年齢は評価対象にならなくなってきました。

経験年数が短くても、年齢が若くても、しっかりと結果を出している者が評価される世の中になったということです。

僕はそのような実力社会において、20代で下記のような結果を出してきました。

- ・ 22歳 大手インターネット企業 新人賞（ゲーム管轄）
- ・ 25歳 大手インターネット企業 グループ会社 取締役就任
- ・ 27歳 独立 / 起業
- ・ 28歳 M & A 売却 RPA サービス

・29歳 M & A 売却 東証一部上場企業 役員就任（最年少）
著書累計10万部

このような成果を20代であげた具体的な方法は本書に詳しく記載しています。

重要なのは「YKK理論」を実践することです。YKK理論とは「やって（Y）、感じて（K）、考える（K）」の略です。

人間の認知活動に基づいた自己学習の方法であり、科学的根拠に基づいた理論を、ビジネス流に作り直したメソッドです。

YKK理論の実践をくり返せば、経験が浅くても、年齢が若くても、短期間で結果を出すことができますようになります。要は、自問自答を繰り返すということです。結果が出る・出ないは、タイミングやその時の状況にも依存します。しかし、結果を出す確率を高めることは、十分できるはずですよ。



本物の実力を身につけ、圧倒的な成果を出す方法とは

本書ではYKK理論をはじめとして、僕自身が20代で成果を出すために、どう考え、どう行動し、どう働いてきたのかについてまとめました。

また、本書をまとめるにあたっては、主観的な内容に終始しないために、若手のプロフェッショナルとも意見交換を重ね、内容に反映しています。

特徴的なのは、超速でキャリアアップを実現した僕自身の強みを前面に出していること。そして、自身の経験と周囲の人々から導き出した「キャリアが浅くても圧倒的な成果を出し、実力を身に付ける方法」を網羅している点にあります。

自らの上昇志向を行動に落とし込めていない若者に最適なビジネス・生活習慣の指南書に仕上がりました。

本書の構成は次のとおりです。

第1章では、自身の現在地を知るための自己分析に関するルールをまとめています。ポイントは言葉にして発信し続けること。まずは、全体を通して必要となる、目標や思いを「言語化」するスキルをマスターしてください。



第2章からは各論に入ります。第2章では、やって、感じて、考える、YKK理論にもとづいて信頼を勝ち取る仕事のルールを確認し、第3章では目標設定のルール、第4章では思考のルール、第5章では人付き合いのルール、そして第6章と第7章ではそれぞれ情報収集のルールと生活習慣のルールについて解説しています。

第1章から順番に読み進めることで、成果をあげるために必要な方法論が体系的に学べます。ただ、言語化のスキルを学んだ後であれば、どこから読み進めても構いません。自分なりの方法論を確立するために、ぜひ、くり返し読んでみてください。

自分自身の実力を高めることができれば、社内の面倒な上下関係に煩わされることもありません。11%という狭き門をくぐり抜け、出世を勝ち取ることも可能です。また転職時には、より有利な条件を引き出すことができますし、実力が物を言う独立時には事業の推進に大きく貢献することでしょう。端的に言えば、キャリアアップを望むままに実現することができるようになる。それが、本書を読むことによって得られるメリットです。

本書によって一人でも多くの若手ビジネスパーソンが自分なりの方法論を確立し、本物の実力を身につけて圧倒的な成果を出し、自身が目指す目標への切符をつかむことができれば、著者としてこの上ない喜びです。